



地域みらい図 ワークショップ

レポートまとめ



—地域の未来をみんなの手で—

令和8年3月
鎌倉市

主催

鎌倉市・鎌倉市社会福祉協議会



ワークショップのねらい

地域には、子育て、高齢者の見守り、障害のある子どもや大人のサポート、移動の不便さ、近所づきあいの変化、地域行事の継承など、さまざまなニーズがあります。こうした「くらしの課題」は、市だけで解決するのではなく、住民同士の支え合いや公的な制度・支援とも連携しながら、地域全体で取り組んでいくことが大切です。

そこでワークショップでは、いろいろな立場の人が「この地区で、これからどんなふうに住らしたいか」から出発し、数年後のまちの様子を具体的に描きました。住民の関わり方の選択肢が広がり、役割を無理なく分かち合える地域づくりにつながることを、ねらいとしました。

地域の見守りや行事の運営は、一部の人に役割が集中しやすく、「このままだと続けるのが大変」という声もあり、地域の課題として「担い手不足」が語られがちです。

一方で、「担い手不足」を強く打ち出すと、地域への参加が責任や負担を伴うものとして受け止められ、新しく関わる人にとってハードルが高くなることがあります。

そのため今回は、役割の話から入るのではなく、地域で大切にしたい暮らしのイメージや、一人ひとりの思いを語り合うことを大切にしました。



各地区の様子

問 地域福祉の活動を促進するために必要なことは何だと思えますか。(〇は5つまで)

区分	回答者数 (件)	容加一 のので人 の活きで 動るも よ気う う軽 な に 内参	帯参 や加 場し 所や のす 設 定 時 間	内両仕 容立事 のので学 活動 校 の 活 動 よ う 家 庭 な と	ル自 を分の 活活 かの特 す技 す活 動 や ス キ	き交地 る流域 する住 る民 こと が 軽 で に	す活 動場 所を 使 い や	す報や公 るをS式 こまNウ めにSエ に最ブ 新サイ 信情ト	報ツチ 提トを 供配 する る シ ン フ 情 レ
全 体	1,521	47.8	40.7	34.3	16.4	27.4	18.5	20.4	20.4
第一地区	125	48.8	38.4	28.8	16.8	28.0	15.2	23.2	18.4
大町・材木座地区	105	41.0	44.8	41.9	19.0	24.8	19.0	28.6	29.5
第三地区	153	49.7	35.9	30.7	13.7	34.6	20.3	21.6	21.6
腰越地区	133	54.1	39.8	33.8	16.5	25.6	19.5	23.3	20.3
西鎌倉地区	148	45.9	43.2	32.4	24.3	33.1	18.2	15.5	20.9
深沢地区	213	45.1	34.3	33.8	17.4	29.1	18.8	15.0	22.1
大船地域A	208	47.6	39.9	35.6	16.8	31.3	20.2	19.2	18.3
大船地域B	226	54.0	44.7	37.6	14.2	21.7	18.1	25.2	20.4
玉縄地区	198	44.4	46.5	33.8	12.1	22.2	15.7	17.2	17.7

実施内容

当日は、次の2つのステップで進めました。

- ・「いま」と「これから」の意見交換（困りごと・大事にしたいことの共有）
- ・地域みらい図づくり（架空の地図に、各地区ごとでどこかをイメージしながら、場所・人の動き・そこで交わされる会話・うまれる関わりなどを、イラストや文字で描いてみる）

地域の課題は抽象的なことも多いため、いまの暮らしを出発点に、数年後の地域で見てみたい景色や場面を描くことで、「どんな地域を目指したいか」「そのために何が大切か」を、共有しました。



ワークショップを通して大切にしたこと

今回のワークショップでは、地域の未来をみんなで考えていくうえで、「わたしの気持ち」も「ほかの人の気持ち」も同じように大切にすることを心がけました。

また、話し合いで出た意見やアイデアがすべてではありません。一步踏み出さなければ何も始まらないという思いのもと、「まずはやってみる」「小さく動いてみる」ことを大切にしました。

さらに、会場にいる人だけでなく、ここにいない人の気持ちや暮らし、やりたいことにも心を配る姿勢を重視しました。

そして何より、「はじめまして」「できることあるよ」「たすけて」が自然につながっていくことを大切にしました。

よ報ス うをマ に簡ホ す単ア るにプ 探りせ せる情	せ覽地 る板域 での情 情掲 報示 を板 知や ら回	報のメ をメル 知ツル らせや せーし るジI でN 情E	か活動 り用画 やしや すてイ すく、 伝見ス えてト るわを	る談ん でだ動 きりし る困て よつう うたて にら す相悩	必れ地 要以域 は上福 な盛祉 いん活 に動 するこ	その 他	無 回 答
21.8	19.4	18.8	8.8	14.0	1.3	2.4	5.1
21.6	20.0	20.0	5.6	15.2	1.6	0.0	5.6
22.9	23.8	19.0	10.5	16.2	1.0	1.0	5.7
20.9	17.6	16.3	5.9	16.3	0.0	4.6	5.2
20.3	17.3	21.8	7.5	13.5	0.0	0.8	6.0
20.3	18.9	18.2	8.8	14.2	2.0	5.4	5.4
19.2	23.0	15.5	8.5	12.2	0.9	1.4	7.0
22.1	16.8	20.2	11.5	16.8	1.4	3.8	3.8
23.0	20.8	19.0	10.6	11.9	2.2	1.8	2.2
26.3	17.7	20.2	8.6	11.6	2.0	1.5	3.5

資料：鎌倉市の地域福祉に関するアンケート調査

問 こどもや若者が地域との繋がりや、地域に参加するために必要なことは何だと思えますか。(〇は5つまで)

区分	回答者数(件)	一人でも気軽に参加できるような内容の活動	参加しやすい時間帯や場所の設定	こどもや若者が主体となる活動	こどもや若者が職業体験・ボランティアなど地域でチャレンジできる機会があること	こどもや若者の意見がまちづくりなどの活動に反映できること	自分の特技やスキルを活かす活動	地域住民と気軽に交流することが出来る	活動場所を使いやすくする	公式ウェブサイトやSNSで最新情報をこまめに発信する
全体	1,521	45.4	45.0	30.9	33.1	31.7	13.9	20.4	19.1	19.7
第一地区	125	44.8	43.2	31.2	33.6	33.6	16.0	25.6	16.8	14.4
大町・材木座地区	105	44.8	46.7	32.4	36.2	30.5	10.5	17.1	28.6	21.9
第三地区	153	45.8	46.4	27.5	33.3	31.4	17.0	22.2	14.4	22.2
腰越地区	133	48.9	43.6	31.6	28.6	34.6	12.8	19.5	16.5	24.8
西鎌倉地区	148	39.9	43.9	28.4	40.5	28.4	15.5	22.3	19.6	17.6
深沢地区	213	43.2	39.9	34.3	32.4	37.1	16.9	20.2	19.2	16.4
大船地域A	208	44.2	44.7	31.7	29.8	34.6	9.6	19.7	22.1	18.8
大船地域B	226	54.0	46.9	29.2	32.7	28.8	16.8	19.0	16.8	20.8
玉縄地区	198	43.4	50.5	32.3	33.8	27.8	9.6	19.2	19.7	21.2

問 あなたが、お住まいの地域では、安心して生活していく上でどのような課題があると感じていますか。(〇はいくつでも)

区分	回答者数(件)	地域の問題を解決する力が不足していること	地域住民による自主的な活動が少ないこと	世代間交流が不足していること	高齢者への支援や介護に関すること	障害のある方への支援に関すること	育児・子育て支援に関すること	母子家庭や父子家庭の支援に関すること	虐待やDVに関すること
全体	1,521	14.9	13.1	16.4	22.4	7.5	9.1	3.8	2.4
第一地区	125	13.6	15.2	14.4	20.0	4.8	8.0	0.8	0.0
大町・材木座地区	105	13.3	12.4	17.1	25.7	6.7	14.3	1.0	1.9
第三地区	153	24.2	15.7	14.4	20.3	10.5	8.5	3.9	3.3
腰越地区	133	11.3	7.5	14.3	23.3	8.3	9.8	5.3	3.8
西鎌倉地区	148	16.2	18.2	14.9	25.0	5.4	6.8	3.4	0.7
深沢地区	213	16.4	12.2	21.1	25.4	8.9	6.1	5.2	2.8
大船地域A	208	16.3	14.9	18.3	25.0	8.7	13.0	3.8	4.8
大船地域B	226	14.2	12.4	16.4	18.6	6.6	7.5	3.5	1.3
玉縄地区	198	8.6	11.1	14.1	19.2	6.6	10.1	4.5	2.5

無回答	その他	子どもや若者が地域の活動に参加する必要はない	活動していて、悩んだり困ったら相談できるようにする	動画やイラストを活用して見てわかりやすく伝える	メールやLINEなどのメッセージで情報を知らせる	地域の掲示板や回覧板で情報を知らせる	スマホアプリで情報を簡単に探せるようにする	チラシやパンフレットを配布し、情報提供する
6.0	2.6	0.5	12.3	9.7	17.4	7.6	20.1	10.3
7.2	1.6	0.0	14.4	7.2	14.4	8.0	22.4	6.4
6.7	1.9	0.0	9.5	12.4	12.4	8.6	25.7	12.4
4.6	2.0	0.0	14.4	2.0	18.3	9.2	19.6	13.1
6.8	1.5	0.0	15.0	12.0	16.5	11.3	21.8	13.5
6.8	3.4	1.4	11.5	9.5	20.9	5.4	22.3	8.8
5.6	3.8	0.5	13.6	11.3	16.0	9.4	15.5	10.3
6.3	1.9	0.5	12.0	13.9	20.2	7.2	20.2	9.6
4.4	4.0	0.4	10.6	8.8	16.4	7.1	17.7	10.2
4.5	2.5	1.0	10.1	9.6	19.7	4.0	20.7	9.6

資料：鎌倉市の地域福祉に関するアンケート調査

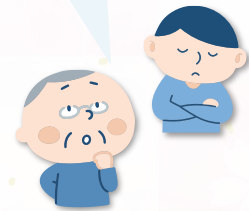
無回答	特にな	その他	防犯に関する	災害時の助け合いや支援に関する	生活面に関する	孤独感・近隣との交流不足に関する	一人暮らしに関する	生活困窮への支援に関する
3.0	18.2	4.5	31.3	34.8	10.1	8.8	14.4	6.0
5.6	15.2	4.0	32.0	34.4	10.4	8.8	12.8	3.2
1.9	17.1	9.5	27.6	34.3	5.7	5.7	13.3	7.6
1.3	15.7	5.2	31.4	45.1	16.3	11.1	15.7	5.9
2.3	8.3	6.0	45.9	34.6	11.3	8.3	15.8	5.3
3.4	10.1	6.8	46.6	42.6	8.1	8.8	10.8	3.4
3.3	19.7	3.8	31.9	33.3	13.6	9.9	18.8	7.5
2.4	17.8	3.8	29.3	38.5	11.1	12.0	14.4	9.6
2.2	23.9	3.5	28.3	33.6	6.6	7.1	12.8	5.8
4.0	28.3	1.5	17.7	23.2	8.1	7.1	14.1	4.0

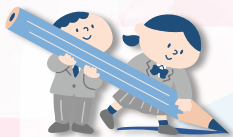
資料：鎌倉市の地域福祉に関するアンケート調査



鎌倉地区①（第1地区社協）で描く「未来の風景」（地域みらい図より）

- 未来の風景①：祭りや食、防災訓練を通じて、日ごろから備えるつながりがある
 - ・祭り、防災訓練、炊き出し、食堂やサロンなど、日常の交流の場が、いざという時の助け合いにつながる。
 - ・高齢者や車いす利用者、子ども連れなども含め、誰もが無理なく参加できる。
 - ・「災害の時に日ごろからどうつながっているか」が大切にされ、備えが日常の中に根づいている。
- 未来の風景②：ゆるく集まり、話し、関われる場から担い手が生まれる
 - ・強い役割や責任から入るのではなく、近所で顔を合わせ、少し話せる場がある。
 - ・公園や空き家、身近な場所が、地域と関わる入口として活かされる。
 - ・一緒に食べる、話す、趣味を持ち寄るといった、ゆるやかな集まりから担い手が生まれる。
- 未来の風景③：子どもや若い世代も、身近な場を通じて地域とつながれる
 - ・子どもの居場所や遊び場があり、子どもや若い世代が地域に関わるきっかけがある。
 - ・商店や神社など、地域の風景そのものが交流の場として活かされる。
 - ・高齢者が子どもを応援し、世代を超えてゆるやかにつながる地域になっていく。





鎌倉地区②（大町・材木座）で描く「未来の風景」（地域みらい図より）

○未来の風景①：あいさつや声かけが自然に交わされ、日常の中でつながれる

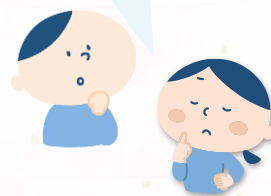
- ・地域のあちこちで人が顔を合わせ、あいさつや声かけが自然に生まれる。
- ・子どもから高齢者まで、日常の中で顔の見える関係が広がり、困ったときに声をかけやすくなる。
- ・健康づくりや身近な交流の場が、安心して暮らせる地域の土台になる。

○未来の風景②：自宅のようにくつろげる場が、地域の相談やつながりの拠点になる

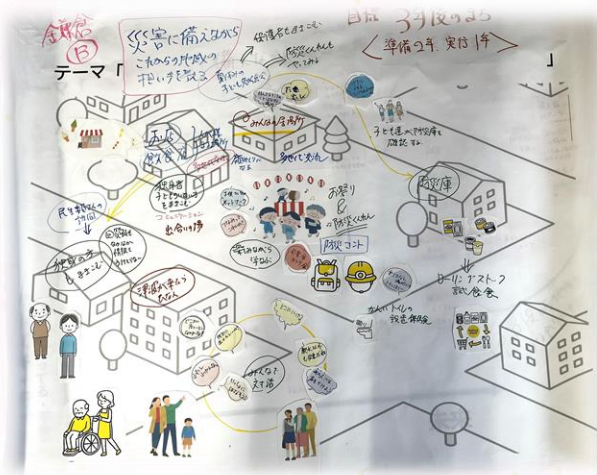
- ・助産院のように、気負わず立ち寄り、安心して相談できる場が地域の中にある。
- ・個人の経験や資格、思いが、地域の支え合いや新しい場づくりにつながっていく。
- ・困りごとを抱えたときに、制度の窓口だけでなく、身近な場所で話を聞いてもらえる。

○未来の風景③：海や商店街のある暮らしの中で、新しい人も自然につながれる

- ・海が近い地域の魅力や、少しずつ活気が戻る商店街が、人と人をつなぐ場になる。
- ・移り住んできた人も、昔から住む人も、無理なく顔を合わせ、関係を築ける。
- ・地域の変化を前向きに受け止めながら、新しい人も関わりやすい地域になっていく。



鎌倉地区②(A)





鎌倉地区③（第3地区社協）で描く「未来の風景」（地域みらい図より）

○未来の風景①：夏祭りや神社をきっかけに、世代を超えてゆるくつながれる

- ・夏祭りや神社の行事が、子どもから高齢者までが自然に集まり、顔を合わせる機会になっている。
- ・行事に参加する人だけでなく、見に来る人、少し手伝う人も含めて、地域との関わりの入口が広がる。
- ・こうした地域行事が、顔の見える関係や、安心して暮らせる地域の土台になる。

○未来の風景②：青空麻雀のような、日常の中のたまり場がある

- ・青空麻雀やベンチまわりなど、目的が強すぎない場で、ゆるく集まり話せる。
- ・「今日はどこに行こう」「コストコ行くよ、買って来る？」のような何気ないやりとりが生まれる。
- ・一人でもふらっと立ち寄れ、気軽に人とつながれる場が、まちの中に点在している。

○未来の風景③：外で過ごしやすい工夫が、見守りや支え合いにつながる

- ・有料トイレや水飲み場、買い物しやすさなど、外で安心して過ごすための環境が整っている。
- ・高齢者、親子、学生、車いす利用者など、さまざまな人が無理なく地域の中を行き来できる。
- ・ごみ拾い、花植え、散歩、声かけなど、小さな関わりが積み重なり、見守りや助け合いにもつながる。





腰越地区で描く「未来の風景」(地域みらい図より)

○未来の風景①：海や祭りをきっかけに、ゆるくつながる場が地域にある

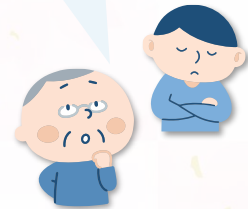
- ・海や神社、お祭りなど、腰越らしい地域資源を通じて、人が自然に集まり、つながる。
- ・お祭りに関わる人だけでなく、見る人、少し手伝う人も含めて、地域との接点広がる。
- ・伝統行事や地域の風景が、世代を超えて関われる場として活かされる。

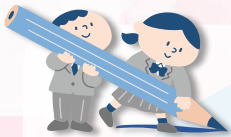
○未来の風景②：子どもや若い世代にも居場所があり、地域とのつながりが続いていく

- ・学校でのつながりや地域行事への参加が、卒業後や成長後も地域との関わりにつながる。
- ・子どもの遊び場や、若い人が集まれる場が身近にあり、無理なく地域と関われる。
- ・SNSなども活用しながら、若い世代にも地域の情報や関わり方が届く。

○未来の風景③：買い物・移動・災害時の不安が和らぎ、地域で安心して暮らせる

- ・身近な買い物の場や移動のやすさが確保され、日常生活の不便さがやわらぐ。
- ・空き家や既存の場所を活かしながら、困りごとを受け止める場や相談の入口が身近にある。
- ・災害への備えや地域での助け合いが進み、いざという時にも安心できる。





西鎌倉地区で描く「未来の風景」(地域みらい図より)

○未来の風景①：子育て世代の孤立が和らぎ、世代を超えて交流できる

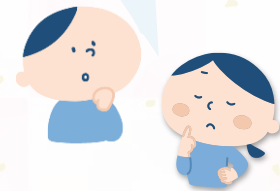
- ・子育て世代の孤立や、地域の人と話す機会の少なさをふまえ、交流できる仕組みをつくる。
- ・世代を超えた関わりの場として、地域の空き家を活用した居場所をつくる。(農園や多世代が集まれるふれあい食堂など)

○未来の風景②：移動の不安が和らぎ、地域の役割が循環する

- ・「お散歩友達」が当たり前になり、ひとりで外出しづらい人も外に出られるようにする。
- ・そのことが、結果として見守りにもつながる。
- ・「助けられる側」から「助ける側」へと役割が循環する。

○未来の風景③：ゆるくつながり、参加しやすい地域になる

- ・ゆるくつながる仕組みや、いつ来てもよいと思える場を通じて、地域への関わりの入口を広げる。
- ・地域に入っていくハードルの高さをふまえ、参加のきっかけを増やす工夫を進める。
- ・退職前後の経験や得意なことが見える化され、「手伝えること」が自然に共有される。





深沢地区で描く「未来の風景」(地域みらい図より)

- 未来の風景①：移動の不安が和らぎ、誰もが地域の中を行き来できる
 - ・送迎バスや移動支援があり、高齢者や子ども連れも無理なく外出できる。
 - ・買い物や集まり、学びの場へ行きやすくなり、地域とのつながりが広がる。
 - ・移動しやすさが、孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域の土台になる。
- 未来の風景②：『みんなの家』のような、誰もが立ち寄れる拠点がある
 - ・深沢みんなの家やボランティアセンター、誰でも学べるスペースなど、立ち寄り先の選択肢がある。
 - ・新しい拠点が、多世代が集まり、相談し、交流できる場として活かされる。
 - ・大きな公園や身近な拠点がつながり、日常の中で自然に人が交わる。
- 未来の風景③：子どもから大人まで、ゆるく関わりながら地域を支える
 - ・子どもも町を知り、見守りや地域活動に関わるきっかけがある。
 - ・ごみ拾いや声かけ、見守りなどの小さな関わりが、地域を支える力になる。
 - ・担い手を特別な人に限らず、世代を超えて少しずつ関われる地域になる。





大船地区①（大船中学校区）で描く「未来の風景」（地域みらい図より）

○未来の風景①：お囃子をきっかけに、人のつながりと地域の場が育まれる

- ・お囃子の練習や本番を通じて、地域の人が自然に集まり、顔の見える関係が広がる。
- ・子どもから大人まで世代を超えて関われることで、地域に入るきっかけや役割が生まれる。
- ・伝統行事を支えるつながりが、地域の交流の場や、ゆるやかな見守りにもつながる。

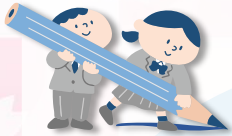
○未来の風景②：身近な場所を使って、子どもをきっかけに交流が生まれる

- ・マンション敷地内やポケットパークなどの身近な場所で、小学生が花植えや水やりに関わる。
- ・そうした日常的な活動を通じて、子ども同士だけでなく、大人とのつながりも生まれる。
- ・身近な場所が、地域と関わる入口として活かされる。

○未来の風景③：誰もが少し立ち寄り、過ごせる場が地域の中にある

- ・テレワークなどで地域にいる時間が増えた人も、心と外に出て地域とゆるやかにつながる。
- ・食事や水分補給、ひなたぼっこができるような、少し休んだり過ごしたりできる場が身近にある。
- ・高齢者や障害のある人も含め、誰もが無理なく外に出て過ごせることが、安心や見守りにもつながる。





大船地区②（岩瀬中学校区）で描く「未来の風景」（地域みらい図より）

○未来の風景①：あいさつと笑顔があふれ、日常の中でつながれる

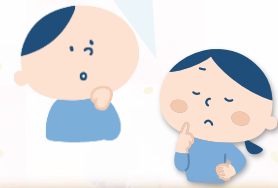
- ・地域のあちこちで人が顔を合わせ、あいさつや声かけが自然に生まれる。
- ・子どもから高齢者まで、日常の中で顔の見える関係が広がり、困ったときに声をかけやすくなる。
- ・健康づくりや身近な交流の場が、安心して暮らせる地域の土台になる。

○未来の風景②：自宅のようにくつろげる場が、地域の相談やつながりの拠点になる

- ・助産院のように、気負わず立ち寄れ、安心して相談できる場が地域の中にある。
- ・個人の経験や資格、思いが、地域の支え合いや新しい場づくりにつながっていく。
- ・困りごとを抱えたときに、制度の窓口だけでなく、身近な場所で話を聞いてもらえる。

○未来の風景③：海や商店街のある暮らしの中で、新しい人も自然につながれる

- ・海が近い地域の魅力や、少しずつ活気が戻る商店街が、人と人をつなぐ場になる。
- ・移り住んできた人も、昔から住む人も、無理なく顔を合わせ、関係を築ける。
- ・地域の変化を前向きに受け止めながら、新しい人も関わりやすい地域になっていく。





玉縄地区で描く「未来の風景」(地域みらい図より)

○未来の風景①：災害時にも助け合える、顔の見えるつながりがある

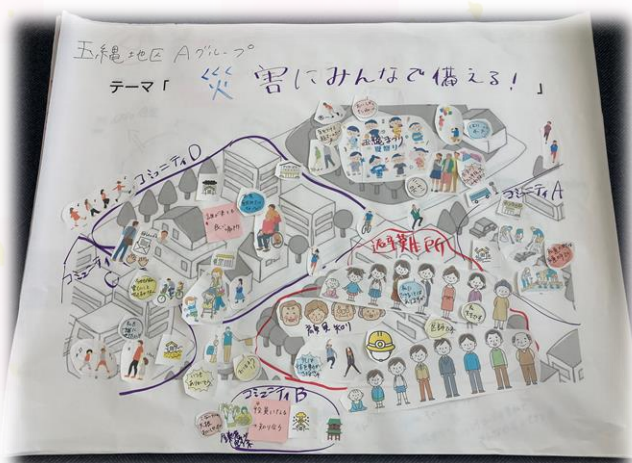
- ・地域をいくつかの身近な単位で支え合い、いざという時に声をかけ合える関係を日ごろから育てる。
- ・子どもも大人も一緒に防災を学び、体験しながら、世代を超えて備える力を高める。
- ・心だんの交流が、災害時の安心や助け合いにつながる。

○未来の風景②：誰もが安心して歩ける道が、地域のつながりを支える

- ・足腰に不安のある高齢者や、車いす、子どもも含め、誰もが安心して歩ける道がある。
- ・地域の緑道が、スーパーや公園などの身近な場所を結び、日常の移動を支える。
- ・そうした道があることで、散歩する人、買い物に行く人、走る人など、さまざまな人が地域の中で自然に交わる。

○未来の風景③：まちのあちこちで、世代を超えて自然に関われる場がある

- ・世代ごとに分かれるのではなく、同じ場所で自然に顔を合わせ、ゆるやかにつながれる。
- ・地域の困りごとを自分たちのこととして受け止め、無理のない関わりの中で支え合える。
- ・まち全体が、安心して暮らし続けるためのつながりのネットワークとして機能する。



メッセージ

【市】

ワークショップやアンケートで見えてきたことをもとに、地域で安心して暮らし続けられるまちづくりに活かしていきます。これからも地区ごとに対話の場を続けます。一人でも、途中からでも、話すのが得意でなくても大丈夫です。ぜひ、気軽にご参加ください。

【鎌倉市社会福祉協議会】

市社協は、地区の活動や身近な相談の場に日常的に関わっています。住民の皆さんのアイデアが無理なく地域住民の主体的な取組につながるよう、地区社協や地域のみなさまとともに進めていきます。

【川上富雄先生（鎌倉市や市社協の計画づくりに長く関わってきた大学教授）】

地域づくりに、正解は一つではありません。だからこそ、いろいろな立場の声を集め、未来の暮らしを具体的に描くことに意味があります。こうした話し合いが、これからの地域づくりにつながることを期待しています。

実施日程・場所・参加人数

日付	時間	対象地区	場所	人数
令和7年(2025年) 6月14日(土)	10:00-12:00	腰越地区	腰越学習センター多目的室	15名
	14:00-16:00	西鎌倉地区		14名
令和7年(2025年) 6月22日(日)	10:00-12:00	鎌倉地区①(第1地区社協)	福祉センター第1・2会議室	12名
令和7年(2025年) 6月29日(日)	10:00-12:00	深沢地区	深沢学習センター第2集会室	17名
	14:00-16:00	玉縄地区	たまなわ交流センター	17名
令和7年(2025年) 7月5日(土)	10:00-12:00	大船地区①(大船中学校区)	鎌倉芸術館第1会議室	14名
	14:00-16:00	大船地区②(岩瀬中学校区)		11名
令和7年(2025年) 7月12日(土)	14:00-16:00	鎌倉地区③(第3地区社協)	福祉センター第1・2会議室	19名
令和7年(2025年) 8月2日(土)	10:00-12:00	鎌倉地区②(大町・材木座)		19名

【連絡先】

鎌倉市健康福祉部福祉政策課 地域福祉担当

〒248-8686 鎌倉市御成町 18-10
TEL 0467-23-3000 (代表)

社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会

〒248-0012 鎌倉市御成町 20-21
TEL 0467-23-1075





—地域のみらいをみんなの手で—